

日本音響学会誌・Acoustical Science and Technology 論文投稿チェックリスト

本チェックリストは投稿時に必要な手続きを確認し、投稿・査読処理を円滑にするためのものです。和文誌の論文・技術報告・寄書・総説、英文誌の Paper・Technical Report・Acoustical Letters・Short Note・Review・Translated Paperの中から該当する項目を確認した上で左側□内に✓を付けて、投稿前に各自で確認して下さい。なお、本チェックリストは、日本音響学会の電子掲示板 <http://www.asj.gr.jp/journal/02.html> から取得できます。

和文誌の論文・技術報告・研究速報・総説・寄書の場合

英文誌の Paper・Technical Report・Acoustical Letter・Short Note・Translated Paper・Review の場合

和文誌の要旨（研究速報、寄書では不要）

- 表題・著者名・所属を頭書きしてある。
- 300字以内で書かれている。
- 本文の図表は引用していない。

和文誌の英文アブストラクト（寄書では不要）

- 表題・著者名・所属を頭書きしてある。
- 語数は、200語（1,000ストローク）以内、研究速報は150語（750ストローク）以内で書かれている。

英文誌の Abstract（Acoustical Letter・Short Note では不要）

- 表題・著者名を頭書きしてある。
- 200語（1,000ストローク）以内で書かれている。

本文

以下の項目が本文に記載されている。

和文論文

- a. Subject Classification No. (本学会誌に掲載の投稿規定参照)。
- b. 原稿の種類 (論文・技術報告・研究速報・総説・寄書等)。
- c. 題名 和文 (40字以内が望ましい) とその英訳。
- d. 著者名 複数人の場合、各々の和文とローマ字 (full name)。
- e. 所属 複数人の場合、各々の和文。
- f. キーワード 論文、技術報告、研究速報、寄書には、和文とその英訳に関して5個程度。
- g. 連絡先 論文の脚注に掲載する連絡先として住所か e-mail アドレスを選択。

英文論文

- a. Subject Classification No. (本学会誌に掲載の投稿規定参照)。
- b. 原稿の種類 (Paper・Technical Report・Acoustical Letter・Review・Short Note・Translated Paper)。
- c. 題名 英文 (副題を付ける場合は：(コロン) を用いること)。
- d. 著者名。
- e. 所属 複数人の場合、各々の英文。
- f. Keywords (5個程度)。
- g. 連絡先 連絡先として論文の脚注に掲載する e-mail アドレス。
- 文章は横書き、「である」体を用いている。
- 専門用語や固有名詞以外は、常用漢字の範囲で書いてある。
- 数字はアラビア数字を用いている。
- 学術用語は、文部省学術用語集、JIS「音響用語」、本学会編「音響用語辞典」等に基づいている。
- A4白用紙を縦長に使用し、1行24字、1ページ30行、行間4mm以上で作成してある。
- LaTeXを利用しない場合：A4白用紙を縦長に使用し、フォントは12ポイント、1行の印字幅は15cm、行間は1行半以上で作成してある。
- 本文には1ページからの通しページを紙の下部に記入してある。
- 章の表題に通し番号をつけてある (例えば、1.まえがき)。
- 脚注は用いていない。
- 諸記号の字体に注意している。特に数学的演算記号・単位記号・化学記号の字体は立体を用いている (例えば、 $\sin(2\omega t)$ でなく $\sin(2\omega t) \cdot \text{kHz}$ でなく kHz)。
- 参考文献は、投稿規定の表記法に従って記述してある。
- 参考文献での和文の論文・書籍の引用では、著者全員の氏名をフルネームで明記してある。

図・写真・表 (学会が供給している LaTeX スタイルファイルを用いずに編集した場合)

- 図・写真・表一つ当たり、紙1枚を用いている。
- 図・写真に関しては、Fig. 1, Fig. 2 (和文では図-1, 図-2も可) のように通し番号を付けて本文で引用している。

- 図・写真に関する説明文は、まとめて別紙に記述してある。
- 表については、Table 1, Table 2 (和文では表-1, 表-2も可) のように通し番号を付けて本文で引用している。
- 図に関する説明文は、別紙ではなく表の上に記述してある。
- 図は、刷り上がり時に片段に取めたい場合は左右 65 mm、段抜きで入れるときは左右 125 mm を限度とし、その刷り上がり時の約 2 倍 (面積 4 倍) の大きさで描いてある。
- 各紙下部余白に番号・論文表題の略・著者名・希望の横寸法 (65/125 mm) を記入してある。
- 図中の文字は、刷り上がり時の約 2 倍の大きさにおいて、14 ポイント (天地: 大文字 4 mm, 小文字 3 mm) 程度で記述してある。
- 図中の文字は英語である (和文誌での図・写真・表の説明文は、和文・英文どちらも可)。
- 図・写真・表の挿入位置を指示してある。
- 提出する PDF ファイルに、フォントを埋め込んである。

図・写真・表 (学会が供給している LaTeX を用いて編集した場合)

- 図・写真に関しては、Fig. 1, Fig. 2 (和文では図-1, 図-2も可) のように通し番号を付けて本文で引用している。
- 表については、Table. 1, Table. 2 (和文では表-1, 表-2も可) のように通し番号を付けて本文で引用している。
- 図中の文字は英語である (和文誌での図・写真・表の説明文は、和文・英文どちらも可)。

-
- 投稿時の内容物として**構成要素**を下記の順番で1部ごとに揃えてある。

本文

要旨 (研究速報, 寄書では不要)

英文アブストラクト (寄書では不要)

Abstract (Acoustical Letter・Short Note では不要)

50 ストローク以内の Short Running Title (奇数ページに入れる簡略化した題目)

図・写真説明文 (LaTeX を用いずに編集した場合)

図・写真・表

査読結果・校正の送付先住所氏名, 郵便番号・Tel・Fax・e-mail

研究会発表等の内容を Acoustical Letter に投稿する場合, 別刷りが添付されている

.....

- 筆頭著者は、投稿時に本学会員である (連名者も会員であることが望ましい)。
- 以前投稿時掲載不適当又は取り下げの修正再投稿の場合、前回論文番号を備考欄に記入可。
- 本投稿原稿の内容は、他学会誌も含め既発表あるいは投稿中ではない。
- 本論文の投稿にあたり、次の査読の判定項目を承知している (詳細は投稿規定付録「査読について」を参照)。
- 〈分野性〉 音響学及びその応用分野に関係するものであること。なお、分野はできるだけ広く解釈する。
- 〈新規性〉 内容が公知・既発表、又は既知のことから容易に導きうるものでないこと。
- 〈有効性〉 内容が産業や学術の発展に何等かの意味で役立つものであること。
- 〈了解性〉 論旨が関連分野の会員に十分理解できるように、簡潔・明瞭に記述されていること。ただし、著しい厳密性・完璧さ・格調の高さ等は必ずしも必要としない。
- 〈信頼性〉 論旨に矛盾がなく、結論等を信頼する上で明確な根拠が示されていること。
- 〈体裁〉 投稿規定に従って原稿が構成され、記述されていること。